

## あみまちを食べよう学校給食事業（スイカの日）授業参加報告

茨城大学は茨城県阿見町と連携協定を結んでおり、町の取り組みに積極的に参加しております。本年度も本学教員および学生が阿見町内の小学校に出向いて、阿見町の特産品にちなんだ食材について食育授業を行います。

第1回は、学校給食スイカの日ということで、本学大学院農学研究科園芸学研究室の鈴木さんと規井さん、そして農学部教員の須藤と宮口が阿見町立本郷食学校の5年生（39名）の教室へ訪問してきました。まず、鈴木さんから、スイカの原産地がアフリカであることや、スイカの花にはオスとメスがあることなど、スイカにまつわる話をしてもらいました。



次に、阿見町学校給食センターの栄養士さんからは、スイカの水分や糖分、ミネラル、ビタミンのことなど、クイズ形式で講義が展開され、児童たちも楽しく聞きっていました。



さらに地元の生産者の方からは接ぎ木や消毒など具体的な栽培の仕方をわかりやすく解説しておられました。質問コーナーでは、講師たちもびっくりするほど、接ぎ木の仕方やスイカで多く発生する害虫（アブラムシなど）の防除方法など、矢継ぎ早にいろいろな質問をしていました。最後に、阿見町産の大玉スイカを切り分け、給食前にちょっと味見する時間を設けました。児童たちは大きなスイカに舌鼓を打ちながら、口の中に頬張っていました。あっという間に45分の食育の授業が終了し、その後の給食でも出されたスイカを美味しそうに食べていました。茨城県内第3位の生産量を誇る阿見町産のスイカ、もっと多くの方に食べてもらいたいと思う楽しい授業でした。

